



輝く未来へ橋をかける —— 人が集まる粋なまち

中央区

面積 ※10.12km²
世帯数 103,635世帯
人口 181,845人
(うち外国人) 11,137人
予算 1,335億円
職員数 1,711人

※境界の一部が未定のため、国土
地理院発表の面積とは異なる。

出典元：中央区政年鑑



世界のショッピングストリート
銀座。観光・グルメも楽しめます。



首都高日本橋区間地下化後の
イメージ(再開発の計画は現時
点の情報に基づいて作成したイメ
ージです。)

出典：首都高速道路日本橋
区間地下化事業パンフレット
(令和2(2020)年6月首都高速
道路(株))



新たなまちの形成が進む晴海
地区(手前は東京2020大会選
手村跡の住宅)

歴史・見所・名所

中央区は江戸開府以来、400年以上にわたり日本の文化・商業・情報
の中心として繁栄・発展してきた、長い歴史と伝統を誇る由緒ある
まちです。明治維新後の文明開化では、いち早く銀座に煉瓦街が建設
され日本の近代化をリードするなど、いつの時代においても先駆的な
役割を担い、飛躍・発展を続ける活気とにぎわいにあふれています。

昭和22(1947)年3月15日に日本橋区と京橋区が統合され、中央区
は誕生しました。その名の示すとおり、23区のはほぼ中央に位置し、
両国橋下流の隅田川右岸に沿って帯状の広がりを見せる日本橋・京橋
地域と、隅田川河口近くに位置する佃及び明治以降これに隣接して埋
め立てられた月島・晴海から成り立っています。

面積はわずか約10km²ですが、歩いて巡ることができるこの小さ
なまちには、江戸五街道の起点であり現在も日本国道路元標がある
「日本橋」、有名百貨店や世界のファッションブランドが集積する「銀座」、
食文化の拠点である「築地」、豊かな水辺環境に囲まれ高層建築と下町
情緒あふれるまちなみが調和する「佃・月島」、そして、東京2020大
会選手村跡地の住宅開発が進む「晴海」など、多彩で個性に富んだ魅力
が凝縮されています。

概要

中央区の区域は東西両端が最長距離で約3km、南北間で約5.5kmで
あり、23区中2番目に小さな区です。

中央区の人口は、平成9(1997)年に過去最低となる71,806人にまで
減少し、都心の空洞化や地域活力の低下が深刻化しました。このまま
ではまちのにぎわいが絶たれてしまうという強い危機感のもと、区の
総力を挙げ定住人口の回復に向けた総合的な施策を進めてきた結果、
平成18(2006)年4月に10万人を達成、その後も人口は増え続け、令
和5(2023)年1月に174,074人となり、70年ぶりに最大人口を更新し、
今後も人口増加が想定されています。

将来の20万都市をしっかりと見据え、中央区に住み、働き、集う
すべての人々が幸せを実感でき、子どもたちが夢と希望を持てる社会
を実現するため、活力ある中央区の発展をめざしていきます。

主要課題・将来展望

本区を取り巻く環境や社会状況の変化を踏まえ、基本構想で掲げる将来像の実現に向けて政策横断的に取り組むべき施策について、4つの「リーディングプロジェクト」に整理し、「中央区セントラルパーク構想」として施策展開していきます。リーディングプロジェクトは、基本政策の取組からそれぞれのテーマに沿って選定・構成されており、基本計画全体を先導していく役割を担います。

01 ゼロカーボンシティプロジェクト

未来の子どもたちへ持続可能なまちをつなげていくためにも、都心区の特性を踏まえ、カーボンニュートラルの実現に向けたあらゆる取組を推進していきます。

- ・建物建築における ZEB・ZEH 化の取組の徹底
- ・家庭・事業所における省エネルギー活動、再生可能エネルギーの導入や活用の促進
- ・区有施設における ZEB 化の推進 他

02 水とみどりプロジェクト

移動自体を楽しめるような、誰もが自然と回遊したくなる仕組みづくりをすすめ、水とみどりにあふれる、やすらぎと憩いのまちをめざして取組を進めていきます。

- ・水上交通の活性化促進
- ・水辺環境の整備
- ・都市を活性化する基盤整備
- ・みどりや文化財を活用した楽しめる回遊空間の創出 他

03 コミュニティ活性化プロジェクト

地域コミュニティが多様な担い手により支えられ、各コミュニティにおける取組やイベントが活発に行われる中で自然と交流が生まれる、災害時はもちろん、常日頃から住民同士が助け合えるまちづくりを進めていきます。

- ・コミュニティ醸成に向けた支援
- ・さまざまな絆が生み出す「地域力」の向上
- ・地域生活課題解決のための包括的支援体制の構築 他

04 経済活性化・文化振興プロジェクト

本区ならではの伝統と文化を守るとともに、新たな価値の創造も積極的に支援することで、区内の産業や観光に新たなにぎわいを創出し、誰もが訪れたい、働きたいと思えるまちを実現します。

- ・多様な主体との連携による観光施策の推進
- ・地域の特色に合わせた産業支援対策
- ・生涯学習や観光資源としての文化財活用 他



まるごとミュージアムではバスや船で区内を巡り、文化的な魅力に触れることができます。



夏の終わりを告げる「大江戸まつり盆おどり大会」。2日間にわたって開催され、多くの人でにぎわいます。



新しくオープンした「晴海区民センター」東京2020大会レガシーとして、ビレッジプラザで活用した木材を一部使用しています。